

6年	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取り組み）	成果と課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習漢字の定着を図る必要がある。</li> <li>物語などの全体像を具体的に想像したり、描写を基に心情や相互関係を捉えたりする際に、自分の考えを表現できるようになってきた。さらに相手に伝わるように分かりやすく表現できるようになるための指導が必要である。</li> <li>対話的な学びの場面で自分の考えを広げ、深めることに意欲的に取り組めるようになってきたが、さらに高める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドリル等の副教材を用いて、書き順を意識した丁寧な文字指導を繰り返し行う。</li> <li>話し方や書き方について自己評価や相互評価をする機会を設け、表現する力を育む。また、読書タイムや音読カードの取組等を通じて、子供の興味関心に応じた読書活動を推進し、表現力を養う。</li> <li>様々な形態での交流活動を授業に取り入れ、考えをより深め、広げていける良さに気付かせる。</li> </ul>	
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>政治の考え方や仕組み、働きについて理解し、生活と関連付けながら考えたり、体験的な学習を通したりして、より学びを深めていくことが必要である。</li> <li>歴史的背景や登場人物の関係性について、理解を深めることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も自分の生活と関連付けながら学習問題を解決するよう促す。学習問題に対して調べたり考えたりしたことを、まとめ発表する機会を適宜取り入れる。</li> <li>資料や動画、写真等を関連付けて読み解く学習を展開し、自らの力で読み解けるようにする。</li> </ul>	
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>分数のかけ算やわり算の計算の仕方を定着させる必要がある。</li> <li>公式等をただ暗記するのではなく、なぜそのような式になるのかを考え、自分の考えを表現する力を伸ばしていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チャレンジタイム等の時間を活用し、習熟を図る。計算を丁寧に行う意識を付けるため、ノート指導を徹底する。</li> <li>なぜそのようなのかを考え、意見を交流する機会を設け、多様な考えを意図的に取り上げることで、考えを深められるようにする。</li> </ul>	
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項や生活経験を根拠にして予想を立てたり、実験結果からどのようなことが言えるのかを考えたりして、表現する力を育む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>予想や実験結果から分かったことについて、まずは自分で考え、その後グループで話し合い、発表する場面を設ける。</li> <li>表現方法は、文章以外にも図やグラフで表せることを示し、苦手意識がある児童への支援を行う。</li> </ul>	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞では、音楽を形づくっている要素をもとに聴き取ったことと、自分が感じたことを関わらせて曲全体を捉え、自分の考えを伝えることに手だてを講じる必要がある。</li> <li>思いや意図に合った表現をするために必要な技能、互いの声や音、全体の響きを聴き合いながら合わせる技能をさらに高める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聴き取ったことをもとに、感じ取ったことや自分の考えをまとめ、様々な形態で交流し、自分の考えを深めていく活動を繰り返し行う。</li> <li>パートの役割を理解し、自分がどのように表現するかを考えながら、友達と音や声を重ねる活動を積み重ねていく。</li> </ul>	
図工	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい道具や技法に対して興味、関心が高いが、既習した技法を他の題材に生かす活動を充実させる必要がある。</li> <li>水彩絵の具やアクリル絵の具における水の加減や筆の使い方など、自分の感覚で調節し、操作できるよう手だてを講じる必要がある。</li> <li>最後の仕上げまで粘り強く取り組む意欲を育てる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入でこれまで学んだ技法や道具の活用方法を具体的に示し、用具の置き場を年間を通して設定する。</li> <li>題材ごとに練習の紙や様々な筆を用意することで何度も試しながら描く活動を確保し、習熟度によってめあてを再設定するようにする。</li> <li>題材の時間数や、題材のめあて、ポイントを常に明示し、見通しをもって最後まで取り組めるようにする。</li> </ul>	
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>自身の生活経験に結び付けて物事を考えたり、よりよい生活にするために工夫したりする力を育む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経験を増やすために実技実習を行ったり、視聴覚教材を活用したりする。児童に身近な具体例を提示し、その場面にあった方法を考える機会を設ける。</li> </ul>	
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>バランスよく動いたり、リズムカルに動いたり、力の入れ方を加減したりすることに課題がある。</li> <li>個人やチームの課題を把握して、解決方法を選択したり、課題解決のための考えを伝えたりする必要がある。</li> <li>運動に積極的に取り組んだり、ルールを守り助け合って運動をしたりすることへの個人差を解消する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>易しい動きから徐々に高まっていくようにしたり、ペアやグループの編成の仕方を工夫したりして、動きを高める。</li> <li>協働的な学習をもとに、タブレット端末等を使って、自分たちの課題を把握しやすくする。示範動画等も活用し、課題を解決しやすい環境を構築する。</li> <li>必要に応じてルールの簡易化や道具の選定、教材の精選を行い、意欲的に取り組めるようにする。仲間の動きや考えを励まし合う活動を設定し、関わり合う中での成長を促す。</li> </ul>	